

丸岡秀子 まるおか ひさ子 評論家。明治二十六年五月五日長野縣南佐久郡臼田  
生れ、平成二年五月二十五日没（一九三一九）。舊姓井出、丸岡、本名  
石井ひぐ。大正十二年奈良女子高等師範學校卒。翌年上京、東洋經濟  
新報社記者丸岡堯と結婚し、川村女學院に勤務。昭和二年夫が急逝、  
産業組合中央會調查部に勤務。十二年同僚の石井東一と再婚、夫の任  
地北京に渡る。二十一年歸國、爾後東京都社會教育委員、日本農村婦  
人協會理事等、新日本婦人の會代表委員等を務めた。『丸岡秀子評論  
集』全十卷（昭和五十三年—平成二年刊）がある。政治家井出一太郎  
作家井出孫六の實妹。

著書 『ひとりの眞實な生きこ』（昭和二十七年一月十日東洋書館）、

『生活の錄音から』（昭和二十八年六月二十日新光社）、『女の一生』

（昭和二十八年十月十六日岩波書店「村の圖書室」）、『現代人の生

態—ある社會的考察』（合著・思想の科學研究會編、昭和二十八年十

一月二十日大日本雄辯會講談社）、『教育を守るため』（合著・關

口泰編、昭和二十九年一月二十日翰林書房）、『若い河』（合著、

昭和二十二年二月五日河出書房「河出新書」）、『知と愛の流れ』（昭

和二十二年十一月理論社）、『中国・十の物語』（昭和二十二年十

一月二十日池田書店）、『明日を呼ぶ母の声—熊本の母の生活記

録』（編、昭和二十二年一月十日東洋館出版社）、『若い娘 若い妻

若い母のため』（昭和二十四年二月二十日知性社「知性選書」）、



『母親入門—信憑される母となるため』（昭和

二十五年十一月二十日国土社「エッセイとものもんだ

い」）、『物価と家計簿』（昭和二十八年八月一

十日岩波書店「岩波新書」）、 中田村俊子とわたり』(昭和四十八年四月二十日中央公論社)、 『心の白ゆくり』(昭和五十五年十一月十日大和書房)、 『手づくりの教育ー長野県中込学校の太鼓楼が教えた』(昭和六十年十月二十一日岩波書店「岩波ブツケレット」)、 『平塚らいてつと日本の近代』(大岡昇平共著、昭和六十一年七月二十一日岩波書店「岩波ブツケレット」)、 『声は無けれど』(昭和六十二年十一月十日岩波書店)等。

丸岡秀子追悼文集編集委員会編 『いのちと命を結ぶー回想の丸岡秀子』(平成四年五月二十一日長野・信濃毎日新聞社)刊。

